

○北海道に帰化したオトメイヌゴマ (新称) (浅井康宏) Yasuhiro ASAI:
Stachys palustris L. newly naturalized in Hokkaido, northern Japan

昨夏、北海道北部地方の帰化植物に接する機会を得たが、その中の未記録と思われるイヌゴマ属の一品について報告する。それは全株白毛を密生する多年草で、長い白色の地下茎を引き繁殖する。茎は方形で通常分岐せず直立し、30-70 cm 許 (原産地では1m 以上にも達する由)。葉は対生し、卵状~線状披針形、尖頭で、長さ4-8 cm、無柄 (下部のものはわずかに有柄)、葉縁に粗鋸歯を有する。下部の葉は多少とも卵状で小さく、ほとんど全辺。花期は7~8月で、茎の上部に花穂をなし、各葉腋ごとに5~6個の唇形花を輪生する。花冠は濃桃紫色を呈し、上唇は3-4 mm、下唇は8 mm 許で、下および側弁には乳白色の地図 (鳥嶋) 状の顕著な斑 (線条) がある。萼は6-7 mm で5裂

し、表面に腺毛を密布し、白長毛を混える。各裂片は三角形状で、先端は長い刺状を呈する。雄蕊は4、葯は暗紫色。柱頭は長く花冠外に突出する。

要するに本種は我国のイヌゴマに似ているが、花が草姿の割には立派で大きく、濃桃紫色を呈し、しかも唇弁に目立った白斑条を有すること、葉がより狭長で尖頭をなし、全草に白色の毛を密布すること、などにより容易に区別できる (Fig. 1)。

以上のものはヨーロッパに広布する *Stachys palustris* L., Sp. Pl. 580 (1753) で、英名を Marsh Woundwort と呼ばれるように、彼地では古くから民間薬として創傷の治療に用いられる由である。ところで本種は現在、北アメリカの北部を中心に、ほとんど全域にわたって広く帰化し、Swamp Hedge Nettle と呼ばれ、極めて変化に富む種類とされている。すなわち葉の形状や長さ、特に茎や葉の毛の状態などにより、若干の亜種あるいは変種のランクで分類、記

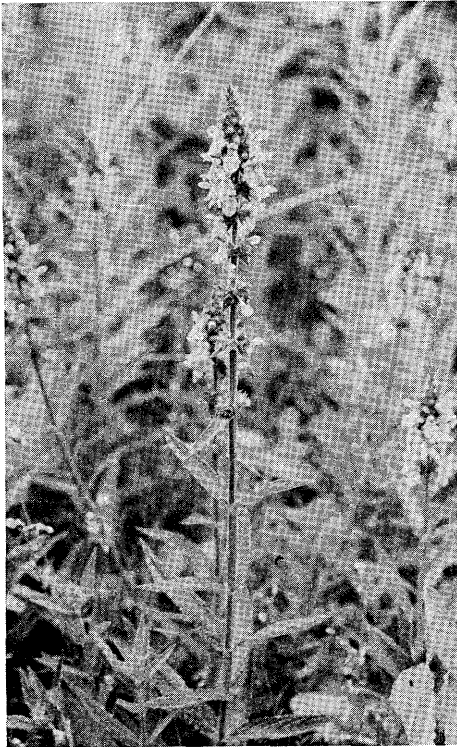


Fig. 1. *Stachys palustris* L. with flowers in waste sites near Nayoro-city, northern Hokkaido. Photographed by Y. Asai, July 31, 1986.

録されているようである。今回のものも細かくみると、多少とも萼に密布した腺毛に長毛をも混える型で, var. *pilosa* (Nutt.) Fernald—*S. palustris* L. ssp. *pilosa* (Nutt.) Epling—*S. pilosa* Nuttall (ケオトメイスゴマ) にあたるかも知れない。しかしながら一方、彼地においても広く検討してみると、母種との間に移行形も存在するなどといった理由から、これを特に区別せずに全て 1 種にまとめて扱う見解もある。したがって筆者は将来、その帰化範囲が広がり、多くのものが見られるようになった時点で、必要ならば再検討するのが妥当と考えている。

ところで原産地などでは、その種小名や英米名が示すように、河川や湖畔の湿地などに好んで生ずる由である。今回のものは名寄市に近い風連の向陽荒地に、エゾノギンギン、キレハイスガラシ、コスカグサ、カモガヤ、ヘラオオバコ、オオツメクサ、ヒメムカシヨモギ、ハルジョオン、ビロードモウズイカを始め、ブタナ、シロツメクサ、アカツメクサ、オオハンゴンソウなどといった同地方に多い帰化植物やオオバコ、シロザ、スギナに混じて群生しているのが見出された。恐らく本種は、該地域に持込まれた牧草などに随伴して侵入、帰化したものと考えられる。因みに今回、その帰化が確認された北海道北部地方の環境(気候条件など)は、本植物の原産地の状態と酷似しているため、今後、該地方に次第にその生育(分布)を拡げ、寒冷な北地の帰化植物フロアの構成要素として定着して行くものと思われる。

なお筆者は本種を最初に手にした時、直ちにセイヨウイスゴマや草状からビロードイスゴマなる名が適当と考えた。しかしながら、その後以前者の名が *Stachys annua* L. に対する先行名として既に存在することに気付いたので、改めて以上とは別に花姿に因み、表題のような和名を提唱することにした。

終りに本種の同定の正確を期すため、外国産標本との対比、閲覧にあたり、種々御高配を戴いた国立科学博物館植物研究部第一研究室長、金井弘夫博士に対し御礼申し上げたい。

Stachys palustris L., a native of Europe, was recently established in Japan as an alien weed. The community of this plant was found by the author in sunny damp waste place near Nayoro-city, northern part of Hokkaido on July 31, 1986. (東京歯科大学)